

## すみれ通信 7月号

すみれ通信は、医療・介護に携わる方に  
発信しています

(第121号)

〒 251-0032

藤沢市片瀬339-1

藤沢市医師会館

在宅医療支援センター

TEL 0466-41-9980

FAX 0466-41-9981

✉ fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp



## 令和7年度「在宅医療・介護連携」第1回多職種懇談会報告

日時：令和7年5月31日(土) 14:30~16:30

場所：市役所本庁舎 5F・2会議室

対象：市内在勤の医療介護関係者

テーマ：話し合おう 入退院時の連携について

参加者：49名 スタッフ7人

アンケート回収数：48人(回収率 98.0%)



## 【所属先】

所属先	数
病院、診療所	17
薬局	1
訪問看護ステーション	6
地域包括支援センター	5
居宅介護支援事業所	9
施設	2
事業所	1
その他	7

## 【職種】

職種	数
医師	4
薬剤師	1
看護職	23
介護職	4
ケアマネジャー	11
社会福祉士	1
ソーシャルワーカー	1
事務職	3

## 【頂いた感想等一部抜粋】

- ・それぞれの立場での大変さや事情、連携の悩みを知ることができた。
- ・病院ごとに窓口や体制が違うので、連携するときに困る。
- ・病院側も連携を取りたいと思っていることが分かり、遠慮せずに連絡を取ってよいことが分かった。
- ・病院・病棟機能の違い、病院の事情を在宅側がより知っておくと連携がスムーズになると思う。
- ・入院時、家族やキーパーソンになる人がいないケースが増えてきており、いざという時のために準備が必要だと思うのが難しい。
- ・少しでも情報共有が行えることが大切と改めて感じた。

## 【出た意見から考えられる課題】

- ・サマリーの共通書式があると良い
- ・医師からの指示がわかりにくい
- ・生きた情報は直接電話で伝えたい

利用しやすい  
サマリーが必要

- ・窓口がわかると情報提供しやすい
- ・病院により窓口が違いわからない
- ・情報を病院内でもっと活用してほしい

相談窓口  
がわから  
ない

- ・病院、病棟によって機能が違う
- ・病院ごとに事情が違う

もっと病院を  
知る必要がある



課題改善に向けて、皆さん一緒に  
取り組んでいきましょう。

お薬でお困りの事はありませんか？  
在宅での薬剤師の役割を紹介します

ベル薬局 市川瑞枝



在宅療養する上で、お薬の困り事はありませんか？

認知症が進み処方された薬がそのまま残っている方、高齢者世帯で薬の管理があやしくなっている方、自己流の解釈で薬を飲んだり飲まなかったりする方、精神的な症状の出現に伴い一度に多量の薬を飲んでしまう方・・・など、様々なお困りごとがあるのではないのでしょうか。

薬剤師は、このような在宅で過ごす患者さんの薬に関するお困り事をサポートすることを目的に訪問をしています。訪問するには主治医の指示書が必要です。その指示書を元に患者さんにあった服薬サポートを検討していきます。訪問頻度は、処方箋にあわせて1回/1~2週程度で、緊急時には薬をご自宅までお届けすることもあります。がん末期患者さんの場合は、週2回程度の定期訪問が可能です。服薬管理としてよく取る方法は、朝昼夕を一包装したり、わかりやすいように色分けしたり、日にちを入れたりしてお薬カレンダーにセットします。(写真参照)



それでも毎日の薬の服用がままならない場合は、ケアマネジャーと相談し、定期循環型訪問看護または介護の方をお願いすることもあります。また、小規模多機能施設で介護職の方をお願いして、一日分ずつ患者さん宅に薬を持参してもらうケースもあります。

私の経験からでは、かなり困難なケースでも医師、薬剤師、ケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパーなど多職種で支えることで安定した服薬状況に改善されました。

薬剤は処方箋に従って服用してもらうことが、医療サポート開始の第一歩になります。薬剤管理に困った時には、まずは薬剤師にご相談をください。

## 「在宅医療・介護連携」多職種研修会

テーマ：急性期病院の病床と役割を知ろう  
～まずは急性期病院の役割から～

日時：令和7年7月24日(木) 19:00~20:30

場所：医師会館2階ホール

内容：湘南藤沢徳洲会病院、藤沢湘南台病院、藤沢市民病院それぞれの特徴や事情の説明

皆様ご参加ください \*詳細は医師会ホームページ参照

